

みかんの果実が考えさせるもの

昨秋は柿がたわわに朱の果実を付けていながら、誰も手を伸ばさずに寒風にゆれている風景をあちこちで見た。我が庭では、みかんの樹が結構果実を付けた。箱に一杯だけ収穫して、あとは数十個、どうなるものかと、風情を楽しむつもりで枝に残しておいた。意外なことに、待っている間は小鳥がつつきに來ない。小鳥まで飽食の時代ではあるまいが、「はて」と思っている矢先に、小雪が僅かばかり舞った。その翌日、気がついてみると、残果は一つ残らず消え去っていた。

日本の農業は、国際分業化と予測される農村人口高齢化の中で、激しく揺れ動いている。一方、我が国の穀物自給率は、昭和35年の82%から、最近では30%まで低下しているとされる。米国との農産物交渉、途上国からの買付要求は、今後ますます激しさの度を増すだろう。

しかし、食糧の充足を抜きにして平和を語ることはできないし、自給率は経済の範囲を超えた高度の政治的判断を要する部分であろう。平和の代償として食糧備蓄は必要であり、将来の日本農業の姿の中で、食糧生産の安定化、生産コストを国際価格に近付ける努力、高齢化に対応する労働の軽減化には、ますます除草剤、ハイテクを含めた植物調節剤の役割が増大してくものと思われる。

雪の日のみかんが、小鳥を一日幸いにしてやれたか、というほのかな喜びと、我が国の、あるいは世界の食糧情勢が、何時か雪をかぶることがないのか、という白刃に触れたような思いが交錯した。

〔財団法人 日本植物調節剤研究会理事
三共株式会社 専務取締役 上井忠太郎〕

目 次 (第19巻第12号)

農業における植物生長調節剤の現況 と将来動向(2).....	2
＜宇都宮大学 竹松哲夫・竹内安智＞	
4. 主要国における生長調節剤の 使用.....	2
5. 生長調節剤利用の実際.....	3
(1) 発芽・発根・初期生育.....	3
(2) 生育抑制.....	4
(3) イネ科植物における倒伏防 止.....	4
(4) 腋芽抑制.....	5
(5) 腋芽伸長促進.....	5
(6) 花芽誘導・開花促進.....	6
(7) 性表現.....	6
(8) 開花の阻害・遅延.....	6
(9) 着果・果実肥大・落果防止.....	7
(10) 摘果.....	7
(11) 熟期促進、収穫の効率化.....	8
(12) 収穫前の落葉・乾燥の足進.....	8
(13) 老化防止、鮮度保持.....	8
(14) 収穫・品質の改善.....	8
(15) 休眠の長期化と覚醒.....	9
(16) 組織培養、生長点培養.....	9
6. 新しい植物生長調節剤の開発 について.....	10

昭和60年度水稻作関係除草剤試験成 績概要.....	12
-------------------------------	----

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞